

千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区指定事業

第一期指定 最終報告書

令和2年3月

千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区会議

目 次

I	千歳市小中連携・一貫教育「調査研究実践モデル校区指定事業」実施要領	
1	事業の目的	P 1
2	事業の内容	P 1
3	事業の実施体制	P 5
4	取組の具体	P 6
II	千歳市小中連携・一貫教育「調査研究実践モデル校区指定事業」の取組の経過	
1	調査研究実践モデル校区会議	P 10
2	教職員を対象とした研修	P 10
3	「調査研究実践モデル校区事業」に係る視察研修	P 12
4	「調査研究実践モデル校区指定事業」の成果	P 14
5	課題	P 18
III	青葉中学校区の報告	P 19
	(青葉中学校・祝梅小学校・日の出小学校)	
IV	東千歳中学校区の報告	P 26
	(東千歳中学校・東小学校)	

I 千歳市小中連携・一貫教育「調査研究実践モデル校区指定事業」実施要領

1 事業の目的

本市各中学校区においては、これまでも地域の実態を踏まえ、その必要性からそれぞれに工夫をしながら小中連携教育を推進してきた。また、教育委員会ではその取組の具体についての調査と分析、各校長との意見交流、先進地の視察等を実施している。

本事業は、本市におけるこれまでの取組の成果と課題、子どもたちを取り巻く生活の現状、先進事例などを踏まえ、小中連携・一貫教育が、本市において、子どもたちの健やかな成長にどのようにつながるのかを改めて検証するために行うものとする。

千歳市小中連携・一貫教育検討会議では、本事業における報告書、実践モデル地区以外の中学校区における現状の正確な把握、先進事例、法令の要請などを総合的に分析の上、「千歳市小中連携・一貫教育実施要領」を策定し、小中連携・一貫教育がより組織的、系統的に行われるように条件整備を進める。

本事業を通して、千歳市小中連携・一貫教育基本方針に示す以下の（１）から（５）はもとより、学校・教育委員会・家庭・地域がそれぞれの役割を明確に意識し、「子どもの健やかな成長」という共通の願いを紡ぐことを目的とする。

- （１）小・中学校共通の目標としての義務教育の目標の実現
- （２）教育内容や学習活動の量的・質的充実への対応
- （３）発達の早期化への対応
- （４）いわゆる「中１ギャップ」への対応
- （５）学校における社会性育成機能の強化

2 事業の内容

（１）調査研究中学校区の指定

教育委員会は、本事業を実施する中学校区（以下「調査研究実践モデル校区」という）を指定する。指定にあたっては、「千歳市小中連携・一貫教育推進の基本方針」に示したように、本市各中学校区の特徴や小中連携の現状を総合的に判断し、１期２中学校区で３期、合わせて６中学校区を指定するものとする。

（２）調査研究実践モデル校区の取組

調査研究実践モデル校区は、次に掲げる取組について、道内外の先進事例から積極的に学びながら、地域や児童生徒の課題を踏まえ、包括的な調査研究を行うこととする。また、調査研究にあたっては、実態を踏まえ、取組の重点化を図ることとする。

- ①教育目標を共有する取組に関する内容
- ②教員同士の交流に関する内容
- ③小中合同の研修に関する内容
- ④教育課程に関する内容
- ⑤その他

※千歳市小中連携・一貫教育推進の基本方針に示す「小中連携・一貫教育の段階的な取組の具体」を参照

(3) 中学校区内の連携組織の立ち上げと運営

調査研究実践モデル校区においては各小・中学校が連携を図るための組織を立ち上げることとする。既存の組織がある場合にはその組織の見直しを図りながら、より実効性の高い組織への改善を図ることとする。

(4) 「調査研究実践モデル校区会議」における情報交流

本事業の実施上の課題や取組状況、成果などの情報を共有し、事業を効果的に実施するため、調査研究指定中学校区の小・中学校の校長及び実務担当者と教育委員会職員で構成する「小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区会議」を設置する。

①構成

- ア 実践モデル校区の小・中学校の校長、実務担当者
- イ 教育委員会企画総務課、学校教育課、学校指導課の課長
- ウ 教育委員会学校指導室長、学校教育主事

②協議内容（推進協議会においては、次に掲げる事項を協議する。）

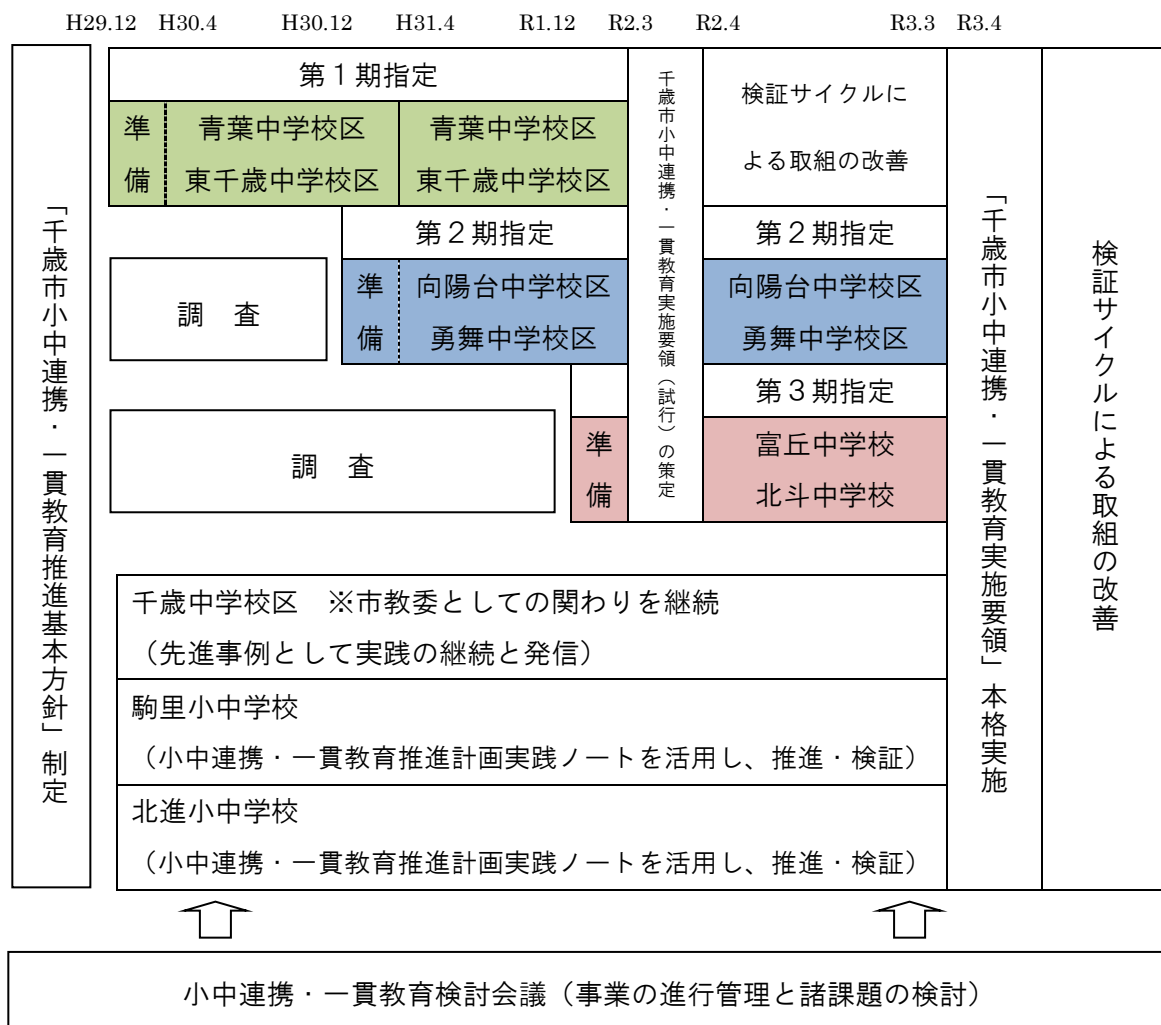
- ア 事業推進上の課題や取組状況、成果などの情報共有
- イ 関係各課からの情報提供及び指導助言
- ウ 「小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区事業」に係る意見交換
- エ その他

(5) 調査研究実践モデルの指定期間

実践モデル校区の指定は、第1期を平成30年4月から令和2年3月まで2年間、第2期を平成31年4月から令和3年3月までの2年間、第3期を令和2年4月から令和3年3月までの1年間とし、第1期事業開始から第3期事業終了までは3年間とする。

以下、調査研究実践モデル校区事業のスケジュール等について、図を示す。

【調査研究実践モデル校区事業のスケジュール等】



(6) 計画書及び報告書の作成と提出

調査研究実践モデル校区においては、実践モデル校区として計画書及び報告書を作成する。作成にあたっては、中学校区内の連携組織にて協議を行うものとし、必要に応じて、教育委員会学校指導室職員が協議に参加することとする。

また、報告書に関しては、調査研究開始後1年を目処に中間報告書を作成し、小中連携・一貫教育検討会議及び調査研究実践モデル校区会議に提出することとする。

小中連携・一貫教育検討会議は、調査研究実践モデル校区から提出された報告書を取りまとめ、小・中学校に情報提供するとともに、「千歳市小中連携・一貫教育実施要領」の策定など、小中連携・一貫教育がより組織的、系統的に行われるように条件整備を進める。

計画書及び報告書については「千歳市小中連携・一貫教育推進の基本方針」に示す「小中連携・一貫推進計画実践ノート」を活用し、学校における事務負担の軽減を図る。また、その手順については、「千歳市小中連携・一貫教育推進基本方針」によるものとする。

(7) その他

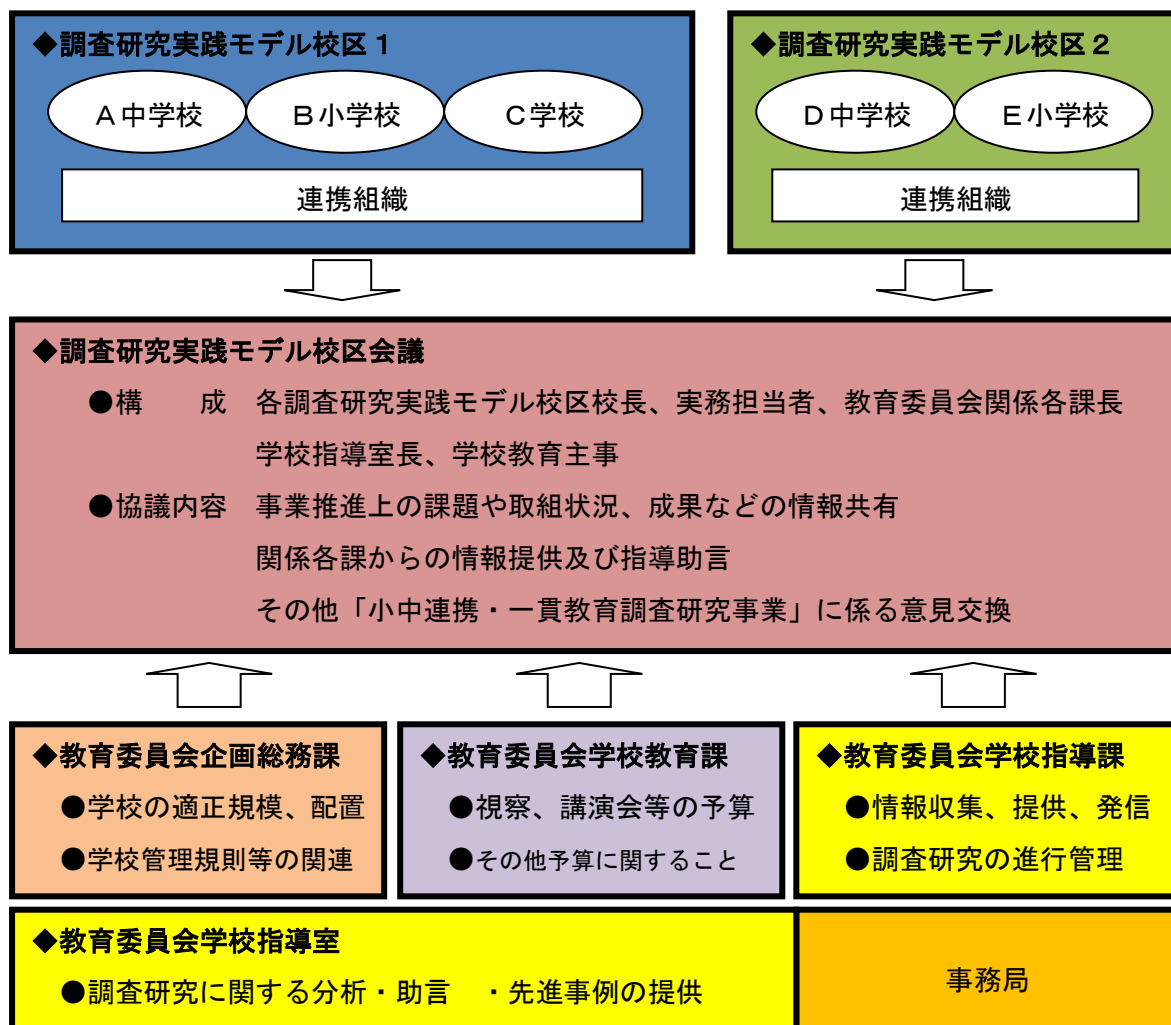
- ・ 調査研究実践モデル校区各校1名、先進事例の視察研修を位置付ける。視察研修の成果については、日常における調査研究実践モデル校区の取組の成果と併せて、翌年度に市内教員対象研修等で発信することとする。
- ・ 第3期の調査研究実践モデル校区については、視察研修は位置付けず、第1期、第2期の調査研究実践モデル校区の報告書等を参考として、取組を推進するものとする。

3 事業の実施体制

本事業は、当該中学校区における教育効果の向上とともに、本市における小中連携・一貫教育をより組織的、系統的に行うための「千歳市小中連携・一貫教育実施要領」策定に資するものである。

以下、本事業の組織体制について、図を示す。

【実施体制のイメージ図】



4 取組の具体

以下に示す小中連携・一貫教育計画実践ノートを用いてP D C Aサイクルによる取組を行う。

小中連携・一貫教育推進計画実践ノート

1 中学校区の状況

中学校区名				施設形態		通学区域	
中学校区							
学校名							
学校規模							
通常の学級数							

2 計画（P）

（1）学校教育目標

（2）小中連携・一貫教育推進組織

組織名					代表校			
学校名	構成員（教職員）				構成員（P T A等）			人数
	校長	教頭						

(3) 中学校区の課題と重点目標

中学校区の課題	中学校区の重点目標

(4) 地域の情報

実態	地域人材等	行事
		(月)
		(月)
		(月)

(5) 具体的な取組と計画

月	学習指導	生徒指導	その他
4 月			
5 月			
6 月			
7 月			
8 月			
9 月			
10 月			
11 月			
12 月			
1 月			
2 月			
3 月			

3 実施（D） 以降年度末に記入

月	学習指導	生徒指導	その他
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

4 成果検証（C）

視点	学習指導	生徒指導	その他
学校の取組			
子どもの育ち			

5 中長期的な計画（P）

年度	学習指導	生徒指導	その他
平成31年度 ・中 道徳科実施 ・小 外国語移行			
平成32年度 ・小 指導要領実施 ・市 基本計画策定			

6 小・中連携・一貫教育の段階的な取組の具体のチェック

※計画・実施項目をチェックする

取組		段階	H30. 4	H31. 3	H31. 4	H32. 3		
1 教育目標を共有する取組	☆中学校区における教育目標の相互理解	連携 交流 段階						
	☆家庭、PTAとの連携							
	☆学習指導・生徒指導の実態交流							
	☆学校便り・学級通信による情報交流							
	☆相互授業参観							
	☆中学校区の組織（協議会）の設置	連携 共有 段階						
	☆授業研究・校内研修							
	☆校外研修の成果の交流							
	☆学力調査等の活用							
	☆学習規律							
	☆家庭学習の習慣化・手引きの作成							
	☆生活習慣のきまり							
	学習指導		☆乗り入れ授業					
			各種検定（漢字・英語等）の実施					
			☆体力向上の取組					
			☆特別支援教育に関する交流					
			小学校での定期試験の実施					
			通知表・学習評価の共有					
			補充学習の交流					
	生徒指導		☆交流・合同行事					
			☆児童会・生徒会の交流					
			☆小中交流会の企画・運営の改善					
			☆家庭生活宣言・アウトメディアの啓発					
			☆いじめや不登校の未然防止の取組					
	☆9年間で育てたい子ども像の設定		小中一貫教育					
	9年間の教育目標の設定							
	研究主題等・テーマの統一							
	校務分掌の整理・統合							
	合同の学校評価							
	教科課程に関する共通の目標設定			☆国語				
				☆社会				
				☆算数、数学				
				☆理科				
		音楽						
		図画工作・美術						
		体育、保健体育						
家庭、技術・家庭								
☆外国語活動、外国語								
道徳								
総合的な学習の時間								
特別活動								
キャリア教育、情報教育、食育など								
連地 携域	中学校区による学校運営協議会の運営							
	学校評議員・学校関係者評価委員の整理							
	地域人材活用状況の共有							

※ ☆印は調査研究実践指定校区における共通の取組

Ⅱ 千歳市小中連携・一貫教育「調査研究実践モデル校区指定事業」の取組の経過

1 調査研究実践モデル校区会議

(1) 目的

小中連携・一貫教育推進の中核的取組である本事業の開始に当たって、調査研究実践モデル校区（以下モデル校区）の各学校の管理職、実務担当者及び市教育委員会関係各課が情報を交換することで、本事業の目的を再確認するとともに、モデル校区の取組の促進及び発信に資することとする。

(2) 千歳市小中連携・一貫教育にかかわる経過

平成30年 5月29日（火）千歳市調査研究実践モデル校区会議①（1期指定）
7月24日（火）千歳市小中一貫教育研修会
7月26日（木）～27日（金）千歳市小中連携・一貫教育視察研修
8月17日（金）千歳市小中一貫教育講演会
10月 9日（火）千歳市調査研究実践モデル校区会議②
平成31年 1月24日（木）千歳市調査研究実践モデル校区会議③
2月 6日（水）総務文教常任委員会に報告
2月15日（金）校長会議にて中間報告の提示
2月27日（水）教育委員会会議に報告
令和元年 6月 4日（火）千歳市調査研究実践モデル校区会議①（1・2期指定）
10月 8日（火）千歳市調査研究実践モデル校区会議②
11月 7日（木）～8日（金）小中一貫教育全国サミット in 堺 視察
令和2年 2月10日（月）千歳市調査研究実践モデル校区会議③
3月16日（月）校長会議にて第1期最終報告書
第2期中間報告中間報告書の提示
3月24日（火）教育委員会会議に第1期最終報告書
第2期中間報告中間書の報告
千歳市小中連携・一貫教育実施要領案の審議
千歳市小中連携・一貫教育実施要領案の公表

2 教職員を対象とした研修

(1) 平成30年度千歳市小中連携・一貫教育研修会

①目的

「千歳市小中連携・一貫教育推進基本方針」（平成29年11月制定）に基づく「千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区指定事業」の開始年度に当たり、市内全教職員が「生きる力」をはぐくむ小中連携・一貫教育について学ぶ機会を設定す

ることで、教職員の小中連携・一貫教育に対する理解を深め、市内小中学校における教育活動の充実に資することを目的とする。

②日時

平成30年 7月24日（火）

③場所

千歳市立北陽小学校 体育館

④参加対象者

千歳市小中学校教職員（525名）

※校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、事務職員、栄養教諭

⑤講演

演題 「小中連携・一貫教育の方向性と英語教育について」

講師 北海道教育大学札幌校教授

北海道小中一貫教育推進事業運営会議委員 萬谷 隆一 氏

演題 「『自分を育てる』小中一貫教育」

講師 広島県呉市立呉中央小学校長 神笠 雅司 氏

（2）平成30年度千歳市小中連携・一貫教育講演会

①目的

「千歳市小中連携・一貫教育推進基本方針」（平成29年11月制定）に基づき、令和3年4月から全市で一斉実施する小中連携・一貫教育について、市民の理解を深め、学校、家庭、地域と教育行政が協働して、義務教育9年間の子どもたちの連続した学びと確かな成長を支える教育環境づくりに資することを目的とする。

②日時

平成30年 8月17日（金）

③場所

北ガス文化ホール（千歳市民文化センター）4階大会議室

④参加対象者

市民 学校関係者（教職員、PTA、学校評議員、学校関係者評価委員、学校運営協議会委員、教育委員会職員等） 石狩管内学校関係者

⑤講演

演題 「小中連携・一貫教育の魅力ここにあり！」

講師 岐阜聖徳学園大学教授 玉 置 崇 氏

3 「調査研究実践モデル校区事業」に係る視察研修

(1) 平成30年度 視察研修（第1期指定）

①目的

千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区事業の推進に当たり、先進地の視察を行い、義務教育9年間で目指す子ども像の設定、教育課程の編成と実施の具体、小中一貫教育による子ども及び教員の変容、コミュニティ・スクールとの関連等について、当該学校長との協議を行い、本事業の一層の推進に資することを目的とする。

②視察日程

平成30年 7月26日（木）にしみたか学園三鷹市立井口小学校

7月27日（金）品川区立品川学園

③視察地

項 目	視察先 1	視察先 2
(1) 学校名	にしみたか学園三鷹市立井口小学校	品川区立品川学園
(2) 所在地	東京都三鷹市	東京都品川区
(3) 小中一貫教育の型	施設分離型小中一貫校	義務教育学校
(4) 沿革抄	・ H18. 4 「にしみたか学園」開園 （井口小、第二小、第二中） ・ 三鷹市で最初の小中一貫校	・ M7. 3 品川小 ・ S2. 4 城南中 ・ H23. 4 施設一体型小中一貫校として開校
(5) 児童数	667 名	1,120 名
(6) 学級数	20 学級	38 学級（特別支援学級 3）
(7) 学校教育目標	輝く笑顔 やりぬく強さ 進んで学ぶ 井口の子	学ぶ力 豊かな心 健やかな体

④内容

- 義務教育9年間で目指す子ども像の設定について
- 教育課程の編成と実施の具体について
- 小中一貫教育による子ども及び教員の変容について
- コミュニティ・スクールとの関連について
- 小・小連携について
- 義務教育学校の教育について 等

⑤訪問者

○青葉中学校区

小笠原 輝幸（青葉中学校長）

月居 忠文（日の出小学校教頭）

佐藤 香代子（祝梅小学校教諭）

○東千歳中学校区

中村 伸次（東千歳中学校長）

高橋 基（東小学校教頭）

○事務局

佐藤 貢（学校指導課長）

（２）令和元年度 視察研修（第２期指定）

①目的

千歳市小中連携・一貫教育調査研究実践モデル校区事業に当たり、小中一貫教育全国サミットに参加して、授業視察及び、義務教育９年間で目指す子ども像の設定、教育課程の編成と実施の具体、小中一貫教育による子ども及び教員の変容、コミュニティ・スクールとの関連等について先進事例を学び、本事業の一層の推進に資することを目的とする。

②視察日程

令和元年１１月 ７日（木）～８日（金）

③視察内容

○授業視察（１１月 ７日）

堺市立市小学校（会場）

【分離型６－３制】

※授業公開：月州中学校・三宝小学校・錦西小学校・市小学校の１２学級を公開

・住所：堺市市之町西３丁目１番１４号

・研究テーマ：「つなぐ・つながる・ひびきあう」

小中連携による道德教育の充実をめざして

○全体会・分科会（１１月 ８日）

全体会 堺市の小中一貫教育の取組紹介・基調講演

分科会 学力向上分科会

④参加者

○向陽台中学校区

林 稔晃（向陽台中学校教頭）

森國 聡（泉沢小学校教頭）

○勇舞中学校区

野上 秀樹（勇舞中学校主幹教諭）

桑田 信之（北陽小学校教諭）

○事務局

大西 智彦（学校指導課長）

4 「第1期調査研究実践モデル校区指定事業」の成果

(1) 教育目標を共有する取組

① 目指す子ども像の設定・共有

○中学校区の実態把握と目指す子ども像の設定

○小中連携・一貫教育全体計画・グランドデザインの作成と共有

子どもたちは小学校1年生から中学校3年生までの義務教育9年間の中で、日々の学習を積み上げ成長する。「小学校の教員が、中学校での学習や子ども達が中学校を卒業するときの姿をイメージしながら日々の教育活動を行っているのか」、「中学校の教員は、小学校のどの学年で何を学び、何につまずいているのかを知った上で指導にあたっているのか」など、課題に応じた対応を模索することが重要である。

モデル校区の小中学校では、小学校と中学校が6・3制の枠組みの中で、学習指導や生徒指導において互いに協力し、義務教育9年間の目指す子ども像を共有し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組むことができた。

② P T Aの連携・接続

○P T A合同行事の設定

○千歳市家庭生活宣言の普及促進

学校とP T Aが共通の課題意識をもち、小中学校のP T Aが研修や行事を合同で実施し、小中学校9年間を通して子ども達を育む環境づくりに取り組むことができた。

また、千歳市P T A連合会による「千歳市家庭生活宣言」について、中学校区P T Aが連携して研修会を実施するなど、子どもたちの望ましい生活習慣・学習習慣の構築に努めている。



(2) 教員同士の交流に関する内容

① 学習規律の接続

○学習規律(スタンダード)の共有・共通化

○ハイパーQ U検査の活用

子どもたちの学力向上の基盤は望ましい学習集団の形成にあり、学習規律の徹底に向けた取組は小学校1年生から見通しを持って進めることが必要である。

ハイパーQ U検査では、義務教育9年間の中で、小学校1年生、4年生、中学校1年生で学習意欲が向上しているとの結果が出ており、中学校区内の交流会等で共通理解を図るとともに、チャンス逃さない丁寧かつ徹底した取組を進めてきた。

② 家庭学習の習慣化の取組

○学習の手引きの共通化

千歳市家庭生活宣言では、家庭での学習時間の目標として「学年×10分＋10分以上」を掲げており、小学校6年生では1時間10分以上の家庭学習時間が求めている。平成31年度全国学力・学習状況調査の質問紙検査結果では、「普段、1時間以上勉強している」児童の割合が62.8%であり、家庭生活宣言の取組が少しずつ浸透してきている。一方で、中学3年生に期待される学習時間は1時間40分以上となるが、「普段、2時間以上勉強している」生徒は27.4%であり、「1時間以上2時間未満学習している」生徒も38.4%と少ない状況にある。各中学校区では、家庭学習の手引きを共通化するなど、一貫した家庭学習指導や家庭への啓発を行い、主体的に学ぶ子ども達の育成に努めている。

(3) 小中合同の研修に関する内容

①学力向上の取組

○学力調査結果等、諸検査の分析・共有・課題の明確化

小中合同教科部会により「標準学力検査」や「全国学力・学習状況調査」、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」、「ハイパーQ U検査」などの調査結果の分析結果を共有し、中学校区としての課題を明確にして、授業改善に対する意識が高まり、具体の取組につなげることができた。

②相互授業参観・授業研究・校内研修

○指導の連続性・専門性の向上

小中学校教員が相互に学びあうことでそれぞれの力量を高める観点から、小中学校教員合同研修の実施や、小中学校教員が互いに授業を見合う授業交流を積極的に実施することができた。互いの校内研究の状況を把握することで、指導の連続性につながる取組として期待できる。



(4) 教育課程に関する内容

①教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定

○9年間を見通した教科系統図の作成

全国学力・学習状況調査や標準学力検査等のエビデンスに基づき、中学校区として、各学年における重点領域・内容を明らかにした「教科の系統図」を作成して、9年間を通じた指導の一貫性を確保するとともに、教職員の授業力の向上や体制整備に努めることができた。

項 目	高学年（小56）	中学1年	中学2年	中学3年
計 算	小5 小数の乗除を行う。 分数（異分母）の加減を行う。（通分と約分を行う。） 小6 小数と分数の計算を早く確実に行う。 通分と約分を早く確実に行う。	・正負の数の四則計算を行う。 ・文字を用い乗除を表す。 ・一次式の加減を行う。 ・方程式を解く。	・文字式の加減を行う。 ・文字を用い単項式の乗除を行う。 ・連立方程式を解く。	・式の展開や因数分解を行う。 ・平方根の計算を行う。 ・二次方程式を解く。
課題・弱点	奇数・偶数、約数・倍数 小数の乗除、分数の計算 単位量	1次方程式 比例と反比例 関数・図形	文字式の計算と利用 連立方程式 一次関数	関数 $y=ax^2$
これだけは！ 【計算力】	分数のかけ算・わり算を途中式まで書いて確実に計算できる。 立体の面積を求めることができる。 図形の面積の公式	分配法則 比例・反比例	連立方程式を解ける。 （※等式の変形等式を整理して）	二乗を 15^2 まで覚える 乗法・因数分解の公式を覚える。 解の公式
数直線 線分図				

時	目 標	学 習 内 容 ・ 活 動	おもな評価の観点	小中連携の視点
1 ・ 2	○小数は整数と同じ十進位取り記数法によって表されていることを理解する。 ○10倍、100倍や、$1/10$、$1/100$などの大きさの数をつくり、それらの関係を小数点の位置の移動に着目して理解する。	・42.195のしくみを調べることとおして、どんな整数や小数も、0から9までの10個の数字と小数点を使って表せることを知る。 ・1.85を10倍、100倍にした数を調べることとおして、小数を10倍するなどの小数点の移り方をまとめる。 ・88.7を $1/10$、$1/100$にした数を調べることとおして、小数を $1/10$にす	関 小数も、整数と同じように十進位取り記数法によって表されているよさに気づき、整数や小数のしくみを考えようとしている。 関 整数、小数の十進数としてのしくみを理解している。 考 整数や小数の10倍、100倍、$1/10$、$1/100$などの大きさの数について、十進位取り記数法をもとに考えている。 技 10倍、100倍、$1/10$、$1/100$などの大きさの数を小数点の位置を移動して作ることがで	中1 式の活用 中2 式の活用 ・数の位取りをもとにした式の表し方は、中学校で2ケタの自然数を、文字を使って表す $(10x+y)$ とときに必要になる。 中3 近似値と有効数字 ・中3では有効数字をはっきりとさせるために、整数部分が1桁の数 a と10の累乗を用いて近似値を $a \times 10^n$ または $a \times \frac{1}{10^n}$ で表すことを学ぶ。ナノメートルなどの小

②乗り入れ授業の実施

○指導の在り方の共有・指導の連続性

小学校から中学校に進学した際、小学校の学級担任制から中学校の教科担任制への学習環境の変化があるが、モデル校では、小中学校教職員が指導の在り方について共通認識をもって乗り入れ指導を行い、小学校高学年段階等からの



教科担任制の一部導入や、小学校から進学した生徒を見守りながら指導する取組を創意工夫しながら実施することができた。

③合同行事の実施

○自己有用感の高まり・先輩へのあこがれ

モデル校では、「新体力テストの合同実施」や「地域清掃」、「部活動体験」、「挨拶運動」など、各中学校区で創意ある取組が実践され、小中学生が相互に影響し合い、中学生の小中学生を指導することによる自己有用感の高まりについても報告されている。また、地域と学校が一体となる取組に発展した事例も見られ、地域とともにある学校づくりの方策としても期待できる。

(5) その他

①学校運営協議会・地域人材の活用などの連携

千歳市は、平成29年度からコミュニティ・スクール調査研究事業により、市内3校をモデル校として調査研究に取り組み、平成30年には千歳市学校運営協議会規則を制定し、令和2年度ですべての小中学校に学校運営協議会を設置する。小中連携・一貫教育を縦のつながり、コミュニティ・スクール事業を横のつながりとして、地域とともにある学校づくりを進め、学校・保護者・地域が一体となり、目指す子ども像の実現に努めることが必要である。学校支援地域本部事業も活用して裁縫学習ボランティアやプール・スキー学習ボランティア、放課後学習ボランティアなど地域人材の活用が進んでおり、今後も社会に開かれた教育課程の創造に努める必要がある。

モデル指定中学校区においても、小中合同の清掃活動を地域と連携して実施する取組が見られ、今後も縦と横の連携の実践を期待したい。

②いじめや不登校の未然防止

各学校においては、学校いじめ防止基本方針に基づき、「いじめは決して許されない」という共通認識のもと、教職員全員がいじめ問題に対し共通認識と危機感を共有し、いじめ事案が発生した場合には、速やかに方針に沿った具体的な対応を講じている。

また、中学校入学後、新しい環境での学習や生活に不適應を起こす「中1ギャップ」につながらないように、「1日登校体験」や「部活動体験」、「乗り入れ授業」など、中学校区内で創意工夫した取組を推進している。

③特別支援教育に関する連携

各校においては、コーディネーターを中心に困り感のある児童生徒の実態把握や教育相談を計画的に進めているが、モデル校においては、小中学校間・コーディネーター間、担任間などで、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」をもとに共通理解を図り、「切れ目のない一貫した指導や支援」に努めた。

5 課題

(1) モデル校区指定事業の実践からの課題

- 9年間を見通した教育課程の編成や教科の系統表の作成について、日常的に教員が意識し利用するものとするには、継続的に小中学校の教員によるコミュニケーションの場を設定する必要があるが時間の確保などが課題として残る。
- 乗り入れ指導に当たって、中学校教員の負担に課題があり、成果検証を行い指導の効果を明らかにしていくことが必要である。青葉中学校には小中一貫教育支援事業による加配教員が配置されているが、配置終了後を想定した乗り入れ指導の在り方について検討する必要がある。
- 合同行事などの小中児童生徒の交流の増加による教員の負担を増やさないよう、取組の検証改善サイクルの確立が求められる。

(2) 千歳市小中連携・一貫教育実施要領（案）の策定に向けての課題

- 全国的には、小中（連携・）一貫教育実施要領を定めている自治体はわずかであるが、教育振興基本計画等で位置づけている事例が多い。本市においては、平成29年11月に「千歳市小中連携・一貫教育推進基本方針」を定め、平成30年度より「調査研究実践モデル校区指定事業」に取り組んでいる。計画では、令和元年度末に「千歳市小中連携・一貫教育実施要領（案）」を策定し、令和3年度より全校実施する予定であるが、実施要領案策定にあたり、今後の見通し・課題を以下にあげる。
- 本市としての小中連携・一貫教育がめざす姿について、教職員をはじめ、地域・保護者にとってわかりやすい「グランドデザイン」や「キーワード」を示すことが必要である。
- 小中連携・一貫教育として、どのような「視点」でどのような「具体的な取組」を求めるのか、具体的な記述が求められる。
- 令和3年度からの「千歳市教育振興基本計画」との関連を意識した実施要領の策定が必要であること。
- 小中連携・一貫教育（縦のつながり）と学校運営協議会や地域・保護者との連携（横のつながり）を一体的に捉えて検討する必要性があること。

Ⅲ 青葉中学校区（青葉中学校・祝梅小学校・日の出小学校）の報告

千歳市立青葉中学校区

青葉中学校長 小笠原 輝 幸

祝梅小学校長 吉 田 篤 弘

日の出小学校長 渡 邊 琢 真

1 経過報告

年	月	日	曜	内 容
30	4	4	水	青葉中学校区小中一貫協議会 第4回運営委員会（H29年度）
		16	月	家庭学習の手引き配付
		18	水	算数乗り入れ指導開始
	5	2	水	クリーン登校①
		29	火	千歳市調査研究実践モデル校区会議①
	6	2	土	英語検定合同実施
		12	火	青葉中学校区小中一貫協議会 第1回運営委員会
		21	木	新体力テスト小中合同実施（日の出小）
				新体力テスト小中合同実施（祝梅小）
		25	月	青葉中学校学校教育指導
	7	24	火	千歳市小中一貫教育研修会
		26	木	青葉中学校区小中合同研修会（祝梅小学校）
		26	木	夏休みチャレンジ教室中学生サポート（祝梅小学校1名参加）
		26・27	木金	千歳市小中連携・一貫教育視察研修
	8	17	金	千歳市小中一貫教育講演会
		21	火	英語検定合同実施
	9	4	火	クリーン登校②
		5	水	日の出小学校学校教育指導
		21	金	青葉中学校文化祭取組見学（中学校登校日②）
	10	6	土	英語検定合同実施
		9	火	千歳市調査研究実践モデル校区会議②
		18	木	青葉中学校区小中一貫協議会 第2回運営委員会
		18	木	青葉中学校ゴミバスターズ（GB）
		20	土	数学検定合同実施
	11	16	火	小中交流会（祝梅小学校）
		19	月	青葉中学校区PTA合同講演会（祝梅小学校）
		20	火	算数乗り入れ授業視察（青葉中学校学校教育指導）

		26	月	祝梅小学校学校教育指導
	12	中旬		青葉中学校数学乗り入れ指導開始
31 (元)	1	18	金	漢字検定合同実施
		19	土	数学検定合同実施
		24	木	千歳市調査研究実践モデル校区会議③
		26	土	英語検定合同実施
	2	7	木	青葉中学校区小中一貫協議会 第3回運営委員会
	4	4	木	青葉中学校区小中一貫協議会 第1回運営委員会
		16	火	算数乗り入れ指導開始
	5	8	水	クリーン登校①（雨天中止）
		24	金	「小中一貫教育支援事業」カリキュラム作成全道研修会
		31	金	青葉中学校区小中一貫協議会 第2回運営委員会
	6	1	土	英語検定合同実施
		28	金	数学乗入れ強化月間（～8/28）
	7	16	火	新体力テスト合同実施（祝梅小・日の出小①）
		17	水	日の出小学校学校教育指導
		22	月	新体力テスト合同実施（日の出小②）
		23	火	青葉中学校学校教育指導
		26	金	青葉中学校区小中連携・一貫教育研修会
	8	24	土	数学検定合同実施（青葉中学校）
	9	4	水	クリーン登校②
		4	水	祝梅小学校学校教育指導
		30	月	文化祭取組見学（日の出小）
	10	3	木	文化祭取組見学（祝梅小）
		15	火	青葉中学校区小中一貫協議会 第3回運営委員会
		30	木	環境整備作業・校舎外清掃
	11	5	火	数学乗入れ強化月間（～12/6）
		15	金	青葉中学校区小中交流会
		18	月	青葉中学校区PTA交流会（日の出小学校）
		26	火	日の出小学校教育指導
	12	24	火	青葉中学校教育指導
2	1	17	金	英語検定合同実施
		18	土	数学検定合同実施
		25	土	漢字検定合同実施
	1	28	火	青葉中学校区小中一貫協議会 第4回運営委員会

2 取組の成果と課題

(1) 教育目標を共有する取組に関すること

① 取組

- 「青葉っ子スタンダード」の教室掲示
- 「青葉っ子スタンダード」の町内会館への掲示
- 小中交流会での「青葉っ子スタンダード」ができるまでの経緯と目的の確認
- 児童生徒へのアンケート実施・分析・全体での確認

② 成果

- 青葉中学校区の全職員・児童生徒が「青葉っ子スタンダード」を知り、全職員が「青葉っ子スタンダード」の3つの目標についての成果と課題を確認することができた。

- 青葉っ子スタンダードアンケートの結果を見ると3校で同様の傾向が表れている。
友達を認める心を持ち、「ありがとう」「ごめんさい」が言え、公共のものを大切にしている児童生徒の育成が図られたものとする。

③ 課題

- 保護者、地域に向けた積極的な情報発信を充実させる必要がある。
- 事業推進に向けた体制の整備（委員会組織の立ち上げなど）をすることが大切である。



(2) 教員同士の交流に関すること

① 取組

- 小中交流会での授業参観・相互交流の実施
- 相互乗り入れ授業の実施
- 小中一貫通信の発行
- 青葉中学校区小中一貫協議会と分科会の設置



② 成果

- 授業参観では、3校で取り組んでいる学習規律や授業スタイルに視点を当てて実施

し、実態を交流することができた。

○通年の中学校の乗り入れ指導教員による算数指導や期間限定の小学校から中学校へのT2乗り入れを行うことでそれぞれの学校の情報共有ができた。

○乗り入れ指導教員による通信を通して情報の共有ができた。

○協議会が中心となり3校で一致した取り組みが行われている。また、分科会を設置し、分担して進めていく仕組みが整いつつある。

③ 課題

○指定事業の加配措置がなくなった後でも取り組みが継続できるような内容の検討が必要である。

○分科会を委員会として組織し、各事業をさらに有効なものにしていくことが重要である。

(3) 小中合同の研修に関すること

① 取組

○夏季休業中の合同研修会の実施

○小中交流会での講演、分科会実施

○3校の学校教育指導の際の授業参観と
研究協議への参加

○学習規律（立腰、机上整理、持ち物など）や指導（課題とまとめの板書、ノート指導など）の統一



② 成果

○青葉中校区の小中一貫教育についての共通理解を深めることができた。

○互いの学校の様子を共有し、統一した取り組みを進めることができた。

○分科会に分かれて小中一貫での各事業について推進や改善を行うことができた。

○三校で「立腰」を合言葉に取り組み、児童生徒の集中力や意欲を引きだしている。

学習準備の机の上に置く物の約束をそろえ、一貫して指導できる体制を取ることで学習規律が徹底され、指導にかかる時間の軽減が図られた。学習規律や指導を統一することで青葉っ子スタンダードに迫ることができた。

○今後の一貫教育を組織的に進める形が整ってきた。

③ 課題

○校区内の情報交換、共通理解をさらに深め、各小委員会内で連絡を取り合い、関連事業を進めていく仕組みを整えていく必要がある。

○負担なく取組を進めるため、内容の精選が必要である。

(4) 教育課程に関すること

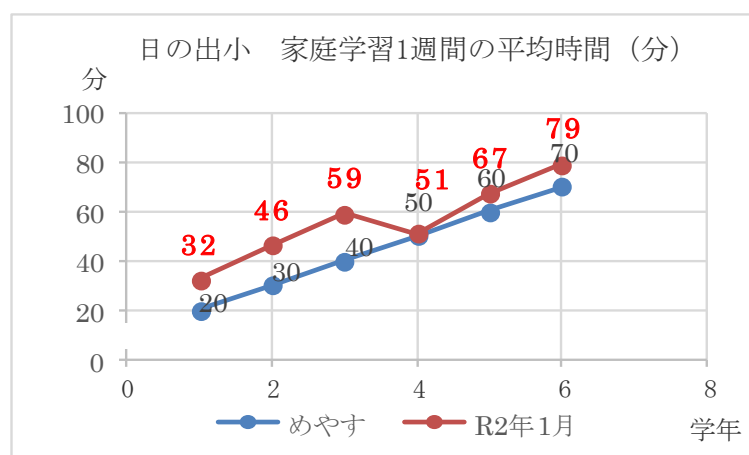
① 取組

- 算数(小5・6年)の乗り入れ授業の実施
- 数学(中1)の乗り入れ授業の実施
- 小中連携の視点を取り入れた算数数学科の年間指導計画の作成・活用
- 算数・数学科の計算領域・関数領域の「これだけは」の取組
- 青葉中学校区家庭学習の手引きの活用



② 成果

- 乗り入れ授業を実施することにより、児童生徒の実態や指導内容を共有することができた。
- 小中連携の視点を取り入れた年間指導計画を作成・活用することで、小学校算数と中学校数学の学習指導で、より連続性のあるわかりやすい学習指導が実現できるというメリットがある。
具体的に、小学校5・6年生の年間指導計画の各単元の授業ごとに小中連携の視点を記載することで、小学校教員の教材理解の手助けとなり、中学校のどの教科のどんな学習に関わるのか、中学校の学習でどんな知識・技能、考え方が大切になるのかを授業で日常的に伝えることができた。
- 9年間の関数領域の系統表ができた。また、小中連携の視点を取り入れた年間指導計画を作成したことにより連続性のある指導を行える体制を整えることができた。
- 青葉中学校区の算数数学科における課題を明確にし、指導に生かすことができた。
- 教科や領域を絞ることで9年間を見通した教育課程の作成について取り組みやすくなった。
- 「家庭学習のめやす」として時間(学年×10+10分)や内容などを祝梅小・日の出小で共通して指導を続けている。1月に行った日の出小学校の生活リズムチェックシートを見ると、どの学年も1週間の平均家庭学習時間がめやすの時間を上回るようになった。



③ 課題

○乗り入れ授業の実施にあたっては、中学校教員に大きな負担が生じる。今年度は、加配教員が配置されたことで日常的な取り組みとなったが、加配教員の配置がされなかった場合は、取り組み方を工夫していく必要がある。

○小中連携の視点をふまえた指導を日常的に行えるよう校内的な仕組みを整えていく必要がある。



(5) その他

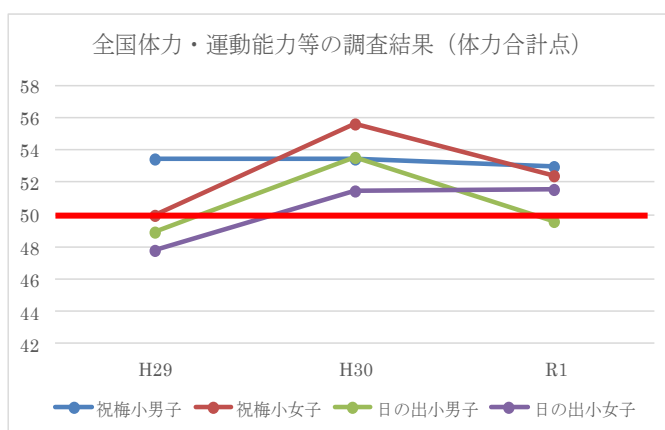
① 取組

- 新体力テストの合同実施
- 文化祭取組見学
- 各種検定（数学・英語・漢字）の実施
- クリーン登校日の実施
- 数学（中1）の乗り入れ強化月間
- 青葉中学校区PTA合同研修会



② 成果

○新体力テストの小中合同実施により、異学年交流や小学生が中学校の様子を見るよい機会となっている。さらに、小学生はやり方やコツを中学校の体育教師に指導を受ける機会となった。中学生の励ましや頑張る姿を見て小学生も取り組もうという気持ちが醸成された。中学生は、小学生に負けられないと頑張る姿が見られた。その結果、合同実施する前の3年前の記録より、大きくポイントが上回り、全国平均を超える種目が増えた。



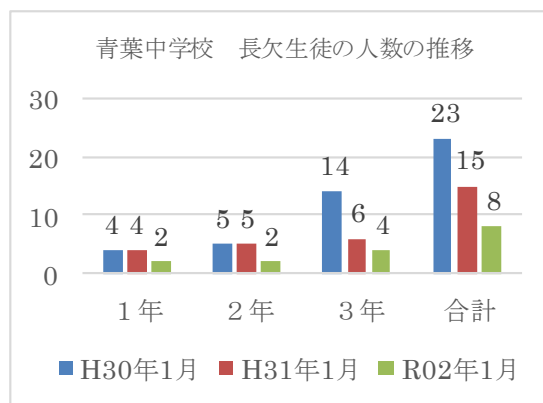
○小学6年生が中学校の文化祭の取組の様子を見学できる貴重な体験となった。

○各種検定を中学校で行うことで、小学生が中学校を訪問する機会が増えた。また、数学・英語・漢字に関心意欲を持つことができた。

○クリーン登校日を設定して活動することにより、青葉っ子スタンダードにある「愛ある人」（自分を愛し、他を愛し、地域を愛する）を育むことができた。

○数学の乗り入れ強化月間を設けることで、小学校から中学校への乗り入れがスムーズに行うことができた。

○PTA合同研修会は各校20名ほどの参加があった。教職員だけでなく地域の保護者との連携を深めることができた。



○小中連携・一貫教育の取組以降、青葉中学校の不登校生徒数の減少がみられる。

③ 課題

○新体力テストの合同実施を行うにあたり、実施の主体が青葉中学校区小中一貫協議会であることを共通理解し、今後委員会内で話し合い、さらに異学年交流の目的を意識した取組を行っていく必要がある。

○文化祭交流では、実施の主体が青葉中校区小中一貫協議会であることを共通理解し、今後委員会内で話し合い、さらに異学年交流の目的を明確化していく必要がある。

○各種検定については、参加人数が実施人数に達せずに未実施になることもあったため、周知を徹底していく必要がある。

○クリーン登校の活動は、教師からの呼びかけで行っているが、児童会・生徒会が主体となり活動できる仕組みづくりが必要である。

○数学の乗り入れに行ける教員が限られているため、無理かからないように継続して取り組める工夫を検討する必要がある。

○PTA合同研修会を3校のつながりを強める機会の一つとしていく必要がある。



Ⅳ 東千歳中学校区（東千歳中学校・東小学校）の報告

千歳市立東千歳中学校区

東千歳中学校長 村上 俊司

東小学校長 田中 貴人

1 経過報告

年	月	日	曜	内 容
30	4	25	水	小中連携・一貫教育全体会【小学校】（全体計画・担当確認、打合せ） 引き渡し下校訓練
	5	14	月	避難訓練
		29	火	新体力テスト【小学校】
	6	4	月	地域清掃
		5	火	小中合同学校評議員会議【小学校】
		23	土	東千歳合同運動会（幼・小・中）【小学校】
	7			部活動への小学生の参加開始【中学校】
		23	月	乗り入れ授業（図工）開始【小学校】
		26	木	千歳市小中連携・一貫教育視察研修【東京都】中村校長・高橋教頭～27日（金）
		29	日	合同美術展（市民ギャラリー）～8月5日（日）
	8	17	金	千歳市小中連携・一貫教育講演会（北陽小）
		27	月	読み聞かせ&笑顔のコーチング授業（HTB）（道徳）【小学校】
	9	5	水	臨時休校 台風21号・震災対応・東千歳中学校区巡視 全家庭訪問～7日（金）
	10	27	土	アイヌ学習【中学校】 東千歳スポーツ大会【小学校】
	11	20	火	小中合同緊急メール連絡網運用開始 小中交流会、小中連携・一貫教育全体会【中学校】 （子ども像、家庭学習の手引き検討、テスト内容等の交流）
		27	火	小中 PTA 合同研修会【小学校】 救命救急講習
	12	8	土	もちつき集会【小学校】
31 (元)	1	21	月	小中合同学校評議員会議【中学校】
		31	金	新1年生体験入学・説明会【中学校】
				合同陶芸教室（2回）
	4	24	水	小中連携・一貫教育全体会【小学校】（全体計画・担当確認、打合せ） 引き渡し下校訓練（小学校学校閉鎖の為中止）
	5			「家庭学習の手引き」への記入と配付
		13	月	第1回東千歳地区学校運営協議会【東小学校】

		14	火	避難訓練の合同実施
		28	火	地域清掃
	6	23	日	東千歳合同運動会（幼・小・中）【小学校】※21日からの延期開催
		27	木	新体力テスト【小学校】
	7			合同陶芸教室（3回）
		12	金	漢字検定1回目（保護者・小・中・教職員 18名受験）【小学校】
				乗り入れ授業（図工）【小学校】～8月
	8	1	木	合同美術展（市民ギャラリー）～8月6日（火）
	9	6	月	AIR DO航空教室【小学校】
	10	16	水	小学校校内研究授業参観交流（3・4年生 算数科）
		26	土	アイヌ学習【中学校】
	11	20	水	第2回東千歳地区学校運営協議会【中学校】
		21	木	小中交流会、小中連携・一貫教育全体会【中学校】 （9年間で育てる子ども像の設定、教育課程の検討、児童会・生徒会活動等の交流）
		25	月	中学校校内研究授業参観交流（3年生 道德）
		26	火	小中PTA合同研修会【中学校】 ミニバレーボール
2	1	17	金	漢字検定2回目（保護者・小・中 22名受験）【小学校】
				合同授業（5～中3）（総合：国際交流）
	2	3	月	新1年生体験入学・説明会【中学校】
		21	金	第3回東千歳地区学校運営協議会【小学校】

2 取組の成果と課題

（1）教育目標を共有する取組に関すること

① 取組

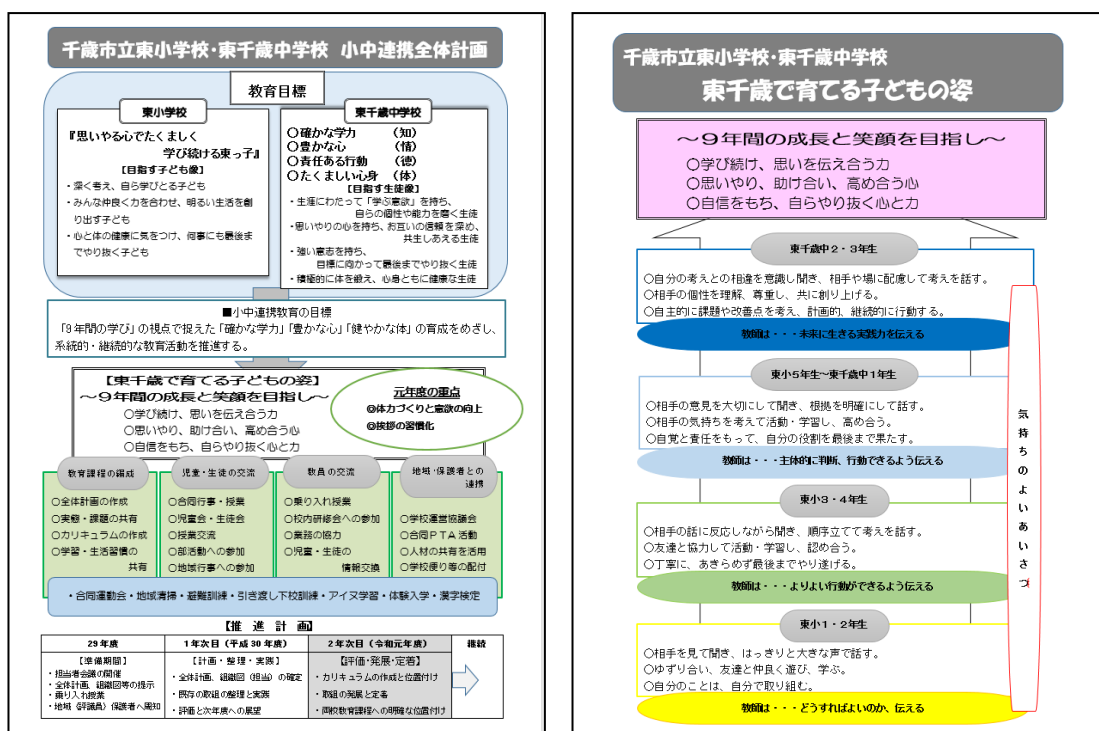
- 小中連携・一貫教育の全体計画の策定と確認
- 「東千歳で育てる子どもの姿」の作成

② 成果

- 年度当初の全体会において、全体計画や担当等を確認することで共通理解が図られ、無理のない範囲で事業を進めることができた。
- 共通の教育目標や9年間を通した段階的な目指す子どもの姿を設定することで、東千歳の子どもの育てるといふ、共通した意識を明確にもつことができた。

③ 課題

- 今後も継続的な取組とするためにも、教育課程へ全体計画等を明記、位置付ける必要がある。



(2) 教員同士の交流に関すること

① 取組

- 「家庭学習の手引き」の作成
- 日常からの情報共有（生徒指導や災害対応等）

② 成果

- 少人数の特性を生かし、一人一人に対応する型の家庭学習の手引きの作成を進め、活用を図ることができた。
- 平成30年9月に発生した3日間の臨時休業（台風・地震）への対応を、両校管理職が連絡を取り合い行った。保護者からは「先生方（小中）が自宅まで来てくださり、親子共々うれしかったです。」という声が、保護者アンケートを通して寄せられた。その後、災害対応から明らかになった課題をもとに、小中合同での保護者への一斉メールの運営を開始し、保護者にも定着している。
- 日常から子どもや家庭の情報共有を図った。両校管理職と保護者との面談も行っている。小中管理職が連絡を密にし、情報を共有することで適切な対応となり、保護者との信頼関係の構築につながった。

③ 課題

- 今後も、学校運営協議会を活用しながら、地域・保護者の声を聞くより確かな体制づくりが求められる。その中で、情報を両校で共有し、取組に生かす関係を継続していくことで、子どもの安心感、保護者、地域との信頼関係を深めていくことがで

きるものと考えている。

東 小 学 校

家庭学習の手引き

東 千 歳 中 学 校

家庭学習のすすめ

- 学力を伸ばすには、学校での学習とあわせて、継続した家庭学習が必要です。
- 家庭学習が習慣となるとことで、学力・学力が高まります。
- 9年間（小学1年生～中学3年生）を見通して、学習を続けましょう。

家庭学習を始める前に

1. **生活習慣を大切に！**
起床・早起き・前二番、テレビやゲームは時間とルールを決めよう。
2. **集中できる環境で！**
テレビは消して、机の上を整理、正しい姿勢で削った鉛筆を正しく持とう。
3. **時間を決めて！**
毎日の家庭学習の時間を決めよう。

家族の協力が大切です！

さあ！始めよう！

- まずは、**習慣を確実に！**・・・しっかりと、丁寧に、気持ちもすっきり！
- そして、**復習を続ける！**・・・復習を続けると、驚くほど力がつきます！！
- さいには、**自分の思いを大切に！**
・・・「もっと知りたい！」「やってみたい！」を大切に自分にとって、よい学習方法を考えいろいろな学習にチャレンジしよう！

家庭学習の時間（めやす）

小学1・2年生	20～30分
小学3・4年生	40～50分
小学5～中学1年生	60～80分
中学2・3年生	120分以上

「継続は力なり！」（つづけて、ちがいがつきます！）
続けること、毎日の積み重ねが、大きな力と自信に！

【小学5年生～中学1年生】
家庭学習のヒント
○計画を立て、続けて学習に取り組もう。

年 名 前

目標

あなたにおすすめ

- ・自分で計画、自分で学習を進めよう。
- ・自分に必要な学習内容を考えて、随時に取り組もう。
- ・もう一度、基礎基本（教科書内容・問題）を見直し、確実に取り組もう。

家庭学習の例

★国語★
◎教科・漢字練習・意味調べ（国語辞典）
読書調べ・朗読調べ・漢字の成り立ち調べ（漢字辞典）
四字熟語・慣用語調べ・ことわざ調べ・対義語・類義語・主語・述語・修飾語・関係語など

★算数・数学★
◎教科書問題・ドリル・自作問題・公式を覚える・計算練習・文章題

★社会★
◎歴史人物調べ・歴史年表づくり・都道府県名調べ・場所所在地調べ・国名調べ・首都調べ
日本、世界地図を見る など

★理科★
◎実験方法や器具、観察をまとめる・図表で調べる
植物や動物・太陽や月・季節・気象・火山や地震、天気の様子、水循環や物質の性質 など

★英語★
◎アルファベットを正しく書く 学習した単語や文の練習 など

★その他★
◎日記・授業の振り返り日記（感想）・新聞記事への感想
◎学校での学習のポイントを整理、まとめ など

◇学習者の力へ◇
得意な教科、苦手な教科を調べるようになります。まずは、基礎基本を大切に、自分にとって必要な学習を有難し、取り組むことも大切になります。意欲や興味関心を高め、計画的・継続的に学習を進めるためにも、見守り、励ましの指導をお願ひします。この時期の学習への取組が、小中学校9年間のまとめ、中学2・3年生への重要な基礎となります。

（3）小中合同の研修に関すること

① 取組

- 小中交流会、小中連携・一貫教育全体会の開催（年2回）
- 校内研究授業の参観交流

② 成果

○情報共有の場として、全教職員による全体会を開催し、小中学校の教員が小中連携・一貫教育に対しての全体像、方向性を確認し、共通認識に立った取組を進めることができた。また、それぞれの学校、教員が求めている子どもの姿などを共有し、相互理解が深まる有意義な交流となった。



○参観交流を行うことで、指導方法や内容、子どもの様子を知るよい機会となった。

○設定された交流会や全体会だけではなく、合同行事や乗り入れ指導等のさまざまな場面で、教員間の交流や情報交換・共有が図られ、指導に活かされた。一方、小中学校の教員間で、日常的に話ができるようになったことだけでも、小中連携は意味のあるものだと感じている教員もいる。



③ 課題

○校内授業研究会への参加体制を明確にし、可能な限り参加することを基本としていきたい。

(4) 教育課程に関すること

① 取組

○新体力テストの合同実施

○中学校教員による乗り入れ指導

○合同授業（特別の教科道徳・総合的な学習の時間等）の実施

○合同行事・活動

（運動会・引き渡し下校訓練・避難訓練の実施・地域清掃・漢字検定等）の実施

○部活動（教育課程外）への参加

○9年間を見通す学習内容の整理

② 成果

○新体力テストの種目である20mシャトルランの測定を小学校高学年と中学生合同で行ったが、互いが声を掛け合い、競い合うことで意欲と記録の向上につながるとともに、結果を交流することで、共通課題を明確にすることができた。また、子どもからは「中学生に負けないようにがんばる。」という声が聞かれたり、中学生が小学生の20mシャトルランの結果を見て、称賛する姿も見られたりした。

○中学校教員が小学校高学年の図画工作（絵画）の乗り入れ指導を行い、技能の向上が図られただけではなく、自信につながるとともに、小学生が中学校生活への見通しをもつ機会にもなった。また、中学校教員の専門的な指導を参観することで、小学校教員の絵画の指導力向上につながった。

○「読み聞かせ&笑顔のコーチング授業（小学校）」「アイヌ文化学習（中学校）」「航空教室（小学校）」「地域清掃（中学校）」では、それぞれの担当校が中心となり、無理なく事業を進めることができた。児童生徒にとっても、多くの体験を積み重ねることが可能となった。また、中学生にとっては、小学生との関わりの中で、自己有用感の高まりを感じることができた。さらに、保護者の参観や地域の方との



活動により、小中学校が連携した取り組みの様子を見ていただき、理解も深めることができた。

○運動会では、小中合同の新種目を設定したことで、練習段階から児童生徒間の交流場面が生まれた。

○引き渡し下校訓練を、早い時期（４月）に実施し、両校としての課題を共有し、保護者への周知の一本化の必要性を確認することができた。

○小学生の卓球部への練習参加は、中学校生活への見通しを持てるという意味も、効果は大きい。小学生の大会への参加がみられるようになり、経験を積んでいる。

○各教科の目標や学習内容を整理し、９年間を見通した指導への意識を高めることができた。

○２回の漢字検定を実施したが、３世代（祖父・母・子）での参加もあり、小中連携が家庭・地域との連携を深める結果となっている。

③ 課題

○新体力テストの結果をもとに、今後も保護者や地域へ周知し、継続した取組の工夫が必要である。

○乗り入れ指導については、他教科の実施を推進することはなかなか難しい。一方、指導方法を共有する研修の機会を設ける必要がある。

○部活動への小学生の参加については、中学校教員への負担が課題となる。また、中学校への移動の安全性、活動中の怪我等に関する課題がある。

国語科～９年間のつながりを意識し～【目 標】				
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
小 学 校	1・2年 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	簡潔立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを <u>まづ</u> ことができるようにする。	言葉がもつよさを <u>感じ</u> るとともに、 <u>進んで</u> 読書をし、国語を大切に <u>して</u> 、思いや考えを伝え合う <u>よう</u> とする態度を養う。	
	3・4年 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	簡潔立てて考える力や <u>豊かに</u> 感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを <u>まづ</u> ことができるようにする。	言葉がもつよさを <u>認識</u> するとともに、 <u>幅広く</u> 読書をし、国語を大切に <u>して</u> 、思いや考えを伝え合う <u>よう</u> とする態度を養う。	
	5・6年 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	簡潔立てて考える力や <u>豊かに</u> 感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを <u>まづ</u> ことができるようにする。	言葉がもつよさを <u>認識</u> するとともに、 <u>進んで</u> 読書をし、国語の <u>大切さ</u> を <u>自覚</u> して、思いや考えを伝え合う <u>よう</u> とする態度を養う。	
中 学 校	1年生 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	簡潔立てて考える力や <u>豊かに</u> 感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを <u>まづ</u> ことができるようにする。	言葉がもつ <u>価値</u> を <u>認識</u> するとともに、 <u>進んで</u> 読書をし、 <u>我が国の言語文化を大切に</u> して、思いや考えを伝え合う <u>よう</u> とする態度を養う。	
	2年生 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	簡潔的に考える力や <u>豊かに</u> 感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを <u>まづ</u> ことができるようにする。	言葉がもつ <u>価値</u> を <u>認識</u> するとともに、 <u>読書を生徒に促</u> して、我が国の言語文化を大切に <u>して</u> 、思いや考えを伝え合う <u>よう</u> とする態度を養う。	

(5) その他

① 取組

○既存の取組を基盤に内容を整理し、発展させた。

② 成果

○合同行事は運動会だけであったが、モデル校区指定を契機に両校の既存の授業や行事を合同で



行うなど、小中連携・一貫教育の取組として整理することができた。

- 両校の学校評議員を基盤に「東千歳地区学校運営協議会」を設立し、両校の教育活動について地域に広く周知でき、改めて協力体制を整えることができた。授業参観により、小1～中3までの様子を見ていただいた。委員からは「小中の違いや子どもたちの成長の様子、授業の様子が見られてよかった。」という感想が出されていた。
- 全ての家庭が、『学校は地域・学校（小中連携）・家庭が連携して教育活動に取り組んでいる』と評価している。（保護者アンケート結果より）

③ 課題

- 2年間の取組を継続しつつ、継続的に検証・整理・発展させていくことが重要である。
- これまで作成したものを、両校の教育課程・学校運営計画等に位置づける必要がある。